

テーマ：オンライン診療の実現に向けて

部署：本院 看護部（訪問看護、外来、入院支援看護師）、医療秘書課、医事課

発表者：久能 恵美

【はじめに】

自宅医療の現場などにおいて、すでに訪問看護などの際に、医師と患者と訪問看護師（D to P with N）の組み合わせによるオンライン診療が行われているという実態がある。これは患者同意の下、オンライン診療時に患者は看護師が側にいる状態で診療をうけ、医師は診療の補助行為をその場で看護師などに指示することで、治療行為が看護師を介して可能となるものと定義している。実際当院でもオンライン診療を行い、訪問看護の利用者でオンライン診療を受ける際、訪問看護師が同席している方もいる。しかしこれは予定された診療であり、今回目指したいオンライン診療は、訪問看護師が利用者の異変に気づき、その後の対応を相談したい時、オンラインでの診察をし、指示を受け対応できればと思い、このテーマに取り組んだ。

【方法・課題・目標】

目標：訪看からの急な依頼に応じて、当院主治医と臨機応変的にオンラインで相談ができるようなシステムを作る

課題：①オンラインするときのデバイス ②どのDrも可能なのか ③診察中でも大丈夫なのか ④コスト面ではどうなるのか ⑤病院側で訪看からの連絡を受ける窓口はどこにするか

【実施（活動・対策）内容】

目標を達成するにあたり、看護部だけでは達成できないため、医療秘書課、医事課に依頼し協力を得た。上記の課題と、作成したアクティビティ図について話し合いを行った。オンラインをする時にはTeamsを利用することにした。

課題に対して・・・

①訪看：iPhone、PC（ポケWi-Fi要） 外来：サービスセンターにあるiPad（空いている時しかできない）

②④オンライン診療研修を修了した医師でないと、オンライン診療料を請求できない。（71点）

③診察・検査中のことが主であり、オンラインが可能か確認して行う。よって不可の時もあり得る。

⑤サービスセンターにあるiPadを使用させて頂く為、誰かがTeamsを立ち上げて「参加する」ところまで設定し、DrにiPadを届ける必要がある。そこでサービスセンター内にいる入院支援看護師に協力を求めたところ、了承を得ることができ、窓口を入院支援看護師に依頼することとなった。Teamsを立ち上げる手順書も作成した。使用後のiPadは外来受付の医事課の方が返却していただける協力も得られた。上記課題の対策をしたうえで、外来で診察中に訪看から連絡がはいるという想定で、アクティビティ図に基づき、シミュレーションを実施した④。また、Drが外来にいない場合を想定した流れで、実際にDrとTeamsで診療を行った⑤。

【結果】

④：アクティビティ図に沿って実施することはできたが、iPadを外来で使用する際にポケWi-Fiがないとネット環境が不安定であり、ポケットWiFiを看護部に借りに行き、そこで設定して外来にもっていくまで、15分ほどかかることがわかった。

⑤：実際にDrのところまで、iPadを持っていき、つなぐ事はできたが、実施時間が17時頃であったため、デバイスの後片づけの流れに課題が見つかった。

【考察】

訪問に行った際、血糖値の変動に対するインスリンの量や、褥瘡の初期対応、皮疹など、その場でDrに相談して対応できれば、自分達だけでなく、利用者や家族の方も安心できると思い、オンライン診療ができればと考えた。しかし実際システムを作るとなると、何人もの手と段階が必要で、機器やネット環境なども課題であると感じた。

【今後】

オンライン診療のシステムは作成したが、Drが外来にいないときの流れについて検討が必要である。また、システムを活用した後は関係した方に連絡をとり、課題をみつめていく。医師にはこの取り組みについて周知し、協力をもとめていきたい。

さらに訪看側としてはスタッフ全員がTeamsを使い、会議を開催できるようアプリの使用方法について習得していく。